

令和8年度 学校経営計画

東京都立浅草高等学校長  
樋口博文

I めざす学校

本校の教育目標

- 1 生徒一人一人の可能性を見つけ伸ばし、知恵と勇気を持って人生の難関を乗り越えていく自信と力を培う。
- 2 他人を思いやり、使命感を持って、積極的に社会に貢献できる人間を育成する。
- 3 生涯を通して、健康で活力のある生活を送るための基礎となる健やかな心と身体をつくる。

スクール・ミッションとスクール・ポリシーは以下のとおり。

(1) スクール・ミッション

課題解決に取り組み、社会に貢献できるリーダーシップを身に付ける、充実した授業や体験活動などの特色ある教育活動を通じて、自分の可能性を見つけ伸ばし、人生の難関を乗り越えていける自信と判断力・決断力を培い、生涯を通して健康で活力のある生活を送るための基礎となる健やかな心と身体をもつ生徒を育成します。

(2) グラデュエーション・ポリシー（学校教育活動を通じてどのような資質・能力を育むことを目指すのか）

- ① 面白く充実した授業や体験活動などを通して、学び方を身に付け、学習習慣を定着させ、主体的に学ぶ力を育成する。
- ② 自立した社会人となるための基礎・基本の定着を図る。
- ③ 豊かな人間関係を築いていく実践的能力を高める。
- ④ 基本的な生活習慣やマナーを身につけさせるとともに、規範意識を高め、社会生活を送るうえで必要な人間関係構築力を育成する。
- ⑤ 学習の基礎から大学進学まで多様な学習ニーズに対応し、学力向上を図る。
- ⑥ 生徒一人一人の自己の確立と自立をめざし、進路希望の実現を図る。

(3) カリキュラム・ポリシー（教育課程を編成・実施するための方針）

- ① 単位制・三部制の機能を生かした多彩な教育活動を展開し充実させる。
- ② 少人数授業・習熟度別授業等により、生徒が主体的に学ぶ双方向・探究型の授業を徹底する。
- ③ 部活動・学校行事・ボランティア活動や友人、教師、地域との触れ合いを充実させる。
- ④ 丁寧で考えさせる生活指導を充実し、基本的な生活習慣やマナーを身につけさせ、規範意識を醸成する。
- ⑤ 学習の基礎から大学進学まで多様な学習ニーズに対応したカリキュラムや教材の充実を図る。
- ⑥ 進路指導を充実させ、生徒一人一人の自己の確立と自立に資する。
- ⑦ 浅草地域の歴史と伝統を尊重し、地域との連携を積極的に図り、特色ある教育活動に生かす。

(4) アドミッション・ポリシー（教育活動に沿って学びうる生徒像）

- ① 単位制・3部制の特長を生かし、意欲的・計画的に学習を行うことができる生徒

- ② 規律と礼儀を守り、豊かな人間関係を築き、卒業後、積極的に社会に貢献する意欲をもつ生徒
- ③ 多彩な選択科目から、自らの興味や希望する進路に合ったものを選択し、進路実現に向けて努力できる生徒

## II 中長期的目標と方策

### (1) 学習指導

〈目標〉目標生徒が社会的に自立して生活していくことができるための基本的な学力の向上と生涯に渡って自ら主体的に学ぼうとする姿勢を育む。

〈方策〉分かる喜びを感じることができる授業を組織的に展開する。

### (2) 進路指導

〈目標〉生徒一人一人の適性に応じた進路活動の指導と支援の組織化

〈方策〉

- 効果的進路指導推進のための教育課程の見直しを行う。
- 1年次からのキャリア教育の再編を研究する。
- 進路指導部と年次の連携を強化する。

### (3) 生活指導

〈目標〉日本での社会生活を健全に営むための規範意識を育成する。

〈方策〉多様な価値観を互いに認め合う姿勢を育むとともに、日本における社会規範・良識を認識する機会を設定する。そのために、教職員の共通理解を図る。

### (4) 特別活動・部活動

〈目標〉コミュニケーション能力や課題解決力を育成する。

〈方策〉各種行事や部活動を生徒が考えて運営できる機会を積極的に設ける。年次ごとの育成目標を明瞭にする。

### (5) 健康づくり

〈目標〉一人ひとりがウェルビーイングを実現できるように指導・支援を行う。

〈方策〉

- 体力テストを組織的に活用して体力向上を実感させる。
- 専門職や外部機関と連携し、精神衛生の保持・向上を図る。
- 給食喫食率を高め、食育指導を推進する。

### (6) ダイバーシティ推進校

〈目標〉ダイバーシティ教育の推進

〈方策〉

- 自国文化と他国文化の違いを知り、互いの文化の違いを尊重するなかで調整できる力を育成する機会を作る。
- 互いの価値観の違いを知り、異なる価値観のなかで調整できる力を育成する機会を作る。
- 日本語教育の充実を図る。

## III 令和8年度の取組目標と方策

### 1 教育活動の目標と方策

#### (1) 学習指導

①教員がファシリテーターとなることで、生徒が主語となる授業を行う。

②生徒自身が学び方や考え方を身に付けられるために以下の授業展開を実施する。

- a) 前時からの確認から入り、本時の振り返りで終わる授業を展開する。
- b) 始業時に「本時のゴール(本時の目標)」と「予定」を示す。
- c) ルーブリックを示すことで自己評価と振り返りができるようにする。
- d) 生徒が学びあえる場面をつくる。
- e) 生徒自身が発問できる工夫をする。
- f) ICT活用とリアルな活動のバランスをとる。
- g) 生徒を主語とする展開をし、生徒が主役になれる場面を作る。

- h) 探究につながる場面を作る。
- i) 少人数だからこそできる授業を工夫する。
- ③ 生徒全員が登録科目の履修を完遂する。(履修率向上)
  - a) 生徒が出席したくなる授業づくりをする。
  - b) 各教科・科目の抽象的概念を実社会の具体的な事象につなげて、学ぶ意味を体得させる。
  - c) 教科担当者は担任と連携し、教科担当者自ら履修指導をする機会を作る。
- ④ 生徒全員が登録科目を修得する。(修得率向上)
  - a) 生徒の実情に合わせて各科目の履修内容の精選をし、年間授業計画を生徒に示す。
  - b) 生徒の実情をくみ取り、評価・評定前までに計画的に補習を実施する。
  - c) オンデマンドでの授業配信で復習ができるようにする。
- ⑤ 学び直し及び発展学習(学び直し及び進学希望者対応)
  - a) トライゼミの適正運営を教科間で徹底する。
  - b) 長期休業日中の講習の参加者数を増加させる。
- ⑥ 日本語指導(N2以上取得を目指す)
  - a) 日本語科目・特別の教育課程と各教科の連携を図り、日本指導の充実を図る。
- ⑦ 授業改善(履修率・修得率向上)
  - a) 相互に授業参観(見る・見られる)を行い、相互に参考になる点、改善点の報告をしあう。実施後は副校長に電子データ等で報告する。
  - b) 生徒の振り返りを参考に、毎時改善点を見つけ出し、次授業に活かす。
  - c) 今求められている授業(都立AIの活用等、デジタル技術を活用した授業等)の在り方を常に研究して、実践に活かす。
  - d) 授業時間45分の確保を徹底する。
  - e) 講義型のみの授業から脱却する。(生徒を主語とした授業)

## (2) 進路指導

- ① 計画的な就業年限を生徒に意識させる。(卒業率向上)
  - a) 卒業までのロードマップを作成させる。
- ② 進路実現を図る。(進路未定者の減少)
  - a) 自己理解をする手立てを提供し、自己理解を促進する。
  - b) 職業理解をする手立てを提供し、職業理解を促進する。
  - c) 本人と保護者等の意向を正確に把握し、指導と支援を行う。
  - d) 担任と副担任が連携した面接指導を計画・実施する。
  - e) 進路指導部と年次の役割分担を明確にしつつも積極的に相互補完をする。
  - f) 進学希望者に対する具体的指導・支援を低年次から実施する。
  - g) 就職・進学の多様性に対する指導・支援を低年次から実施する。
- ③ 日常の校内的服装・頭髪等指導とは別に、社会でも通用するための服装・頭髪等を行う。その為の理解促進をする。
- ④ 適切な就業体験(アルバイト等を含む)を積むことで社会とのつながりを経験させる。

## (3) 生活指導

- ① 各国の文化を尊重するとともに、日本で過ごすための社会常識、良識を身に付けさせる。(学校適応対応・出席率向上)
- ② TPOに応じた服装・頭髪にすることや言葉遣いができるようにする。  
(学校適応対応・出席率向上)
- ③ コミュニケーション力を向上させるための手立てを提供する。  
(学校適応対応・出席率向上)
- ④ 相互理解に基づきいじめの起きない人権意識を育成する。そのため、いじめ防止授業を年3回実施する。
- ⑤ SC、YSWや外部機関と連携して生命に関わる事故を防ぐ。また、SOSの出し方を定

期的に生徒に提供する。

(4) 特別活動・部活動等

- ①帰属意識を高め学校行事やHRへの参加率を高める。(参加率向上)
- ②地域貢献・社会貢献ができる機会をより多く提供する。(奉仕活動等への参加者増)
- ③一人一部活動以上に参加できるようにする。(加入率向上)
- ④生徒会や各委員会活動を活発化させる。(出席率向上)
- ⑤図書館の利用を促進する。(利用率、読書率の向上) (新聞の活用)

(5) 健康づくり (出席率向上)

- ①健康診断全員受診と結果フィードバックで健康を向上させる。
- ②喫煙防止教育・薬物等乱用防止教育を実施する。(問題行動減少)
- ③保健指導を充実させ、性についての正しい知識を身につけさせる。
- ④生徒の精神衛生保持・向上のために専門職や外部機関との連携を図る。
- ⑤体力向上のための手立てを提供する。
- ⑥安全で美味しい給食提供を基盤とし、生徒の喫食率向上を図る工夫をする。また、食育指導を充実する。

(6) 募集・広報活動・地域交流等

- ①本校の特色を明確にして入学第一志望者を増加させる。特に三部の魅力を発信する。
- ②多様な入学希望者に対応するための入学相談体制を整備する。
- ③新たな地域交流の手立てを考案する。

(7) 学校経営・組織体制

- ①企画調整会議を学校経営の中心に位置づけ、学校運営を組織的計画的に進める。
- ②東京都の指定事業を充実させる。
  - a)ダイバーシティ推進校(グローバル人材育成)
  - b)校内別室指導(不登校対策・中途退学防止)
  - c)多様な学び推進校(不登校対策・中途退学防止)
  - d)「自立支援チーム継続派遣校」(不登校対策・中途退学防止)
- ③異なる勤務形態が存在する中で、職員間の情報共有について工夫と改善を行う。
- ④ボトムアップの提案や組織的OJTを推進し、職員の資質向上を図る。
- ⑤経営参画型の経営企画室としての機能を強化する。
- ⑥警察・消防・ハローワーク等の関係諸機関との連携を強化する。
- ⑦近隣町内会・伝統工芸振興会・商店会・社会教育施設等と連携し、地域社会の文化・教育力を活用し、日本の伝統や文化を世界に発信する力を養う。
- ⑧全ての職員は高い規範意識と服務規程に基づき職務を遂行し、都民に信頼される学校づくりを行う。服務事故はゼロ。
- ⑨ライフ・ワーク・バランス、超過在校時間の縮減を推進する。

(8) 研修

- ①学習
  - a)生徒による授業評価の実施と分析・改善策の明示を行う。
  - b)教員相互の授業参観の実施と結果報告の実施を行う。
  - c)研修で学んだ指導方法を研修会で報告する。
- ②生活
  - a)いじめ防止、体罰防止、生命に関わる事故防止等の研修を実施し、事故ゼロの学

校にする。

③進路

- a)最新の進学方法状況 大学等の情報分析
- b)就職状況
- c)外国ルーツ生徒に関わる進路関係状況

④保健・支援

- a)精神衛生保持・向上に掛かる専門家(特別支援教育心理士、精神科学校医の巡回相談等)研修
- b)特別な支援が必要な生徒理解のための研修、通級の評価方法の理解研修

2 重点目標(主な数値目標)

(1)学習指導

- ①学校評価アンケート(生徒)において「三部制・履修登録の理解度」を95%以上とする。(5年度86、6年度94、7年度89%)
- ②学校評価アンケート(生徒)において「学力向上の実感」を80%以上とする。  
(生徒 5年度66%、6年度72%、7年度69%)  
(保護者 5年度69% 6年度71%、7年度61%)
- ③生徒による授業評価アンケート全項目(6項目4段階評価)3.8以上とする。  
(7年度3.7%)
- ④科目修得者数を伸ばす。(年次進行を考慮)  
1年次19単位以上80% (7年度82.5%)  
2年次38単位以上85% (7年度72.5%)  
3年次57単位以上85% (7年度82.6%)

(2)生活指導

- ①「自立支援チーム継続派遣校」として、中途退学者を前年度比5%減少させる。  
(6年度50人・7.9% 7年度65人・10%) (4月在籍比)  
中途退学者は就業等社会へつながる支援を実施する。
- ②特別指導の件数を前年度比5%減少させる。(7年度15件)
- ③学校行事への出席率を向上させる。  
儀式的行事 始業式・終業式・修了式・部集会80%以上 (7年度79%)  
体育祭85%以上(7年度85%) 文化祭85%以上(7年度82%)  
旅行的行事80%以上(1年次から3年次対象) (7年度78%)  
年次目標:1年次:80%、2年次:80%、3年次70%、4年次50%。(年次進行を考慮)  
7年度:1年次94.7% 2年次67%、3年次修旅65.2%、4年次48%)

(3)進路指導

- ①2月末日時点での卒業見込者の進路決定率を65%以上とする。(年度末75%)  
年度末(6年度67%、7年度74%)
- ②卒業年次5月の進路希望実現を(就職・大学・専門学校・職能等)75%以上とする。  
(7年度70.7%)
- ③2年次2月時点での進路希望把握を、  
3修制希望者100%、4修制以上希望者70%以上とする。(7年度3修90% 4修60%)
- ④前期中間考査時点での卒業予定者を卒業させる。95%以上(R7:93.3%)
- ⑤長期休業日中の講習・補習を充実させる。  
開校講座28以上(R7夏19、冬9)  
申込者の参加率80%以上

(4)校内研修、生徒募集、広報、地域との連携 その他

- ①校内で実施する教職員対象の研修会を年間10回以上実施する。
- ②分割前期募集の受検倍率を1.0倍以上とする。
- ③校内・外の学校説明会を年間20回以上実施する。
- ④在校生が複数いる区の教育支援センター(ブリッジスクール・適応指導教室)を教員で1回以上訪問する。

- ⑤ホームページは、年間100回以上更新する。
- ⑥生徒による地域のボランティア活動を5回以上実施する。  
(5年度5回、6年度3回、7年度3回)
- ⑦部活動加入率を上げ、2団体以上の部活動を関東大会以上に出場させる。
- ⑧教育活動中の怪我等の生徒事故を0とする。
- ⑨体罰0件・いじめ0件を徹底する。
- ⑩ライフ・ワーク・バランス実現のため、月80時間以上の超過勤務者0名、年15日以上の年休取得者を全職員の80%以上とする。